植物〔羊〕アヲチャセンシダ，ミヤマシダ　ミヤマヘビノネゴザ，シラネワラビ，タカネシダ，トガクシデンダ，ヒメスギラン，コスギラン．〔裸〕ハヒマツ．〔單〕ミヤマノガリヤス，ミヤマドゼウツナギ，ミヤマカウバウ，ミヤマアハガヘリ，ミヤマイチゴツナギ，ハクサンイチゴツナギ，ヲノヘスゲ，クモマシバスゲ，ヒメカハヅスゲ，タカネナルコ，イハスゲ，ミヤマアシボソスゲ，ヒゲハリスゲ，タカネスズメノヒエ，クモマスズメノヒエ，ミヤマヌカボシサウ，クロユリ，チシマアマナ，オホバタケシマラン，ハクサンチドリ，テガタチドリ，キソチドリ，ホザキイチエフラン．〔離〕レンゲイハヤナギ，ムカゴトラノヲ，オンタデ，マルバギシギシ，ミヤマミミナグサ，タカネツメクサ，シナノナデシコ，タカネナデシコ，ビランジ，センジュガンピ，イハツメクサ，ハクサンイチゲ，ミヤマヲダマキ，ミヤマキンポウゲ，シナノキンバイ，ミヤマタネツケバナ，クモマナヅナ，イハベンケイ，ハナチダケサシ，ヤハタサウ，シコタンサウ，ムカゴユキノシタ，チヤウノスケサウ，ハクロバイ，ミヤマダイコンサウ，チングルマ，ミヤマキンバイ，ウラジロキンバイ，ミネザクラ，タカネナナカマド，イハワウギ，シロウマワウギ，オヤマノエンドウ，タカネグンナイフウロ，ムラサキツリバナ，シナノオトギリ，ウスバスミレ，ハクサンサイコ．〔合〕イハウメ，ウラシマツツジ，イハヒゲ，ミネズハウ，ツガザクラ，アヲノツガザクラ，キバナシャクナゲ，クロマメノキ，コケモモ，タウヤクリンダウ，ミヤマハナシノブ，ヒメコゴメグサ，ミヤマシホガマ，ヨツバシホガマ，エゾシホガマ，ヒメクハガタサウ，テングクハガタ，ミヤマクハガタ，オニク，オホキヌタサウ，オホヘウタンボク，スルガヘウタンボク，チシマヘウタンボク，チシマギキャウ，イハギキャウ，タカネウスユキサウ，ウサギギク，タカネヨモギ，ハハコヨモギ，ミヤマヲトコヨモギ，イハインチン，センヂャウアザミ，ミヤマカウゾリナ，タカネニガナ，マルバダケブキ，カンチカウゾリナ，タカネヒゴタイ，タカネカウリンクヮ，ミヤマアキノキリンサウ，シロウマタンポポ．

文献　矢澤米三郎・河野齡藏；白峰三山植物目錄「日本アルプス登山案内」210—214 (1917)　杉本順一；「靜岡縣の植物」26—32 (1948).

○植物採集覺書追記（奥山春季）Shunki OKUYAMA: Some additions and corrections of names of plants used in my previous writings (Tentative list of plants for collectors 1 -12). 覺書を書き出してから早や 5 年の歳月が流れ，關東地方の主な地域を終り中部地方に入つたが，この間色々な事實が判明して來たので今後は追記として增補し，資料を提供して下さつた諸氏の好意にむくひたいと思ふ。

カトウハコベ *Arenaria Katoana* Makino の新產地。陸中早池峯山で發見記載されたもので關東地方では尾瀨の至佛山が唯一の產地であつたが，谷川岳（西黑尾根マチカ澤二の澤の突上げ附近）で根岸晃氏が昭和 23 年 (1948) 9 月 5 日採集された。

カブダチジャノヒゲ（新變種）**Ophiopogon japonicus var. caespitosus** Okuya-

ma, **var. nov.** Rhizoma caespitosum. Pedicelli 3—4 mm longi, medio articulati, crassiusculi. Hab. Honshu: Prov. Awa, Mt. Kiyosumi (S. Asano, Jan. 1, 1951; S. Okuyama, Jan. 29, 1951—typus in Herb. Nat. Sci. Mus. Tokyo.). 安房清澄山にはジャノヒゲに似て居るが匐枝を曳かず株立ちとなる形で，小梗は長さ 3—4 mm あり，これに近いナガバジャノヒゲ *O. japonicus* var. *umbrosus* Maxim. (*O. Ohwii* Okuyama) は小梗が彎曲して細長く 5—10 mm ある點で容易に區別出來る。

コウシンヤマハクカ (新變種) **Isodon umbrosus** Hara var. **latifolius** Okuyama, **var. nov.** Folia rhombeo-ovata vel ovata, 9—13 cm longa, 5—6 cm lata, apice acuminata. Hab. Honshu: Prov. Kai, Sagashio-kosen (S. Okuyama, Sept. 11, 1943—typus in Herb. Nat. Sci. Mus. Tokyo.), Mt. Mitsu-toge (K. Hiyama, Sept. 1, 1948), Prov. Shinano, Kitazawa-tôge (S. Okuyam, Aug. 5, 1938). イヌヤマハクカは甲信側の山地に入ると葉が廣くなり卵狀長楕円形—卵形で巾 5 cm 余に達するものがある。この形は從來ミヤマヒキオコシと呼ばれて居た形の一部かと思うが，私はこれをイヌヤマハクカの廣葉型と見て上記の如く區別した。尙ミヤマヒキオコシの名で圖說された寺崎，植物圖譜(續) 2467 圖はタカクマヒキオコシ *I. lanceus* Kudo で，磐城古關產の標本は鈴木貞次郎氏の好意により見る事が出來た。現在知られて居る本種の北限である。

キンレイクヮの分布。關東地方のキンレイクヮは北部がコキンレイクヮ *Patrinia gibbifera* Nakai で，西南部がキンレイクヮ *P. triloba* Miq. (*P. palmata* Maxim.) である。即ち日光地方から尾瀨，谷川連峯，赤城山，淺間山，妙義山にわたり，裏日本の北は鳥海山から西は加賀白山に及び南は乘鞍岳までさがつて居る。キンレイクヮは秩父奥多摩地方 (北は兩神山まで)，八ケ岳，丹澤山，富士箱根地方，安倍峠—成島峠から飛んで伊勢菰野山，大台ケ原山 (以上の標本を見た) に及び分布境界がはつきりして居る。尙筑波山の記錄があるが標本を見て居ないので兩者のどちらかは未解決である。以上で見る樣に中部日本を中心に分布して居り，東北地方には磐梯山，吾妻山，飯豊山，佐渡の線を南限としてマルバキンレイクヮ *P. gibbosa* Maxim. と入れ變つて居る。

尙本草綱目啓蒙は "加州ノ白山ヨリ出ルモミヂバノヲミナメシアリ一名白山ヲミナメシ種樹家ニテ金鈴花ト云" とあり，地理的分布の上からはこれらの名は皆前記コキンンイクワ (牧野博士が變種として區別された折に新稱された名) であるから，文獻的に言へば現在呼んで居るキンレイクヮの方の和名がなくなるわけであるが，其後の本草圖譜や草木圖說等は兩者を一緒にした取扱ひをして居た。私は *P. gibbifera* Nakai (*P. palmata* var. *gibbosa* Makino) をコキンレイクヮ一名白山ヲミナヘシ，モミヂバノヲミナヘシとし，*P. triloba* Miq. をキンレイクヮ(改訂した意味での) として殘し混亂をさけたいと考へる。